

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |            |  |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1890800012       |            |  |
| 法人名     | 社会福祉法人 聖徳園       |            |  |
| 事業所名    | グループホーム あわら聖徳園   |            |  |
| 所在地     | 福井県あわら市田中々3-25-7 |            |  |
| 自己評価作成日 | 平成 30年 9月 12日    | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |  |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 |  |  |
| 所在地   | 福井県福井市光陽2丁目3番22号  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成30年10月19日       |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に同法人が運営しているこども園・児童家庭支援センターがあり、それぞれの事業所を利用している子供達との交流があり利用者の楽しみとなっている。1階にある小規模多機能とも連携を図り、外出、行事などを一緒に開催する事で沢山の方々との交流を持つようになっている。利用者の希望を伺って外食会や外出したり、恒例行事となっている紅葉狩りにはご家族の方々にも声を掛けて一緒に出掛ける機会を作り利用者が楽しめる企画を設けている。地区の奉仕活動・体育祭・夏祭りなどに掛かけたり地域の方を対象とした介護予防教室「いきいきサロン」を開いて地域の方々との交流が出来る機会を設けている。職員が利用者一人一人に応じたその人らしく楽しみのある生活が送れるように個別支援に取り組んでいる(リトミック・音楽療法・料理教室・習字教室など)出来る事を継続して頂ける様に普段の家事の手伝いや歩行訓練を兼ねた散歩なども日課に取り入れている。

母体法人が運営する認定こども園、児童家庭支援センターの子供たちと、リトミック、音楽療法などを通して触れあったり、外出の機会を多く持ち季節を感じるなど、様々な刺激を受けながら楽しく過ごせる工夫を行っている。地域活動や行事にも利用者のペースに合わせてながら参加することで、利用者と地域の繋がりを大切にしている。また介護予防教室の開催や独居高齢者宅への訪問、配食サービスなど、地域の高齢者福祉としての役割を果たす活動を積極的に行っている。さらに近隣住民の協力で事業所周辺の除雪や、独居高齢者が災害時の一時的避難場所として事業所を利用するなど、地域と助け合う体制ができてきている。職員のチームワークは良く、話し合い、指摘し合いながら運営に反映させ、また利用者の笑顔を大切にしたり関わり心かけ、利用者と向き合う支援に取り組んでいる。

egaowo

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 「高齢になっても障害を持って住み慣れた地域で自立した良質な生活を過ごせるように支援します」という理念に基づき取り組んでいる。法人手帳に記載されており各会議の際には福祉観を唱和し職員全員が理念と姿勢を確認している。                    | 年1回法人全体の理念について研修を行い、理解を深めている。また理念に則した独自の年間目標を設定し、理念の実践に取り組んでいる。達成度の評価も全職員で行い、課題の抽出や次年度の取組みに繋げている。                            |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 地域のお祭りや体育祭・奉仕作業などにも参加している。地域の自治防災会にも加入し災害時の緊急避難場所として受け入れる事も考慮している。介護予防教室に参加されている方々は事業所の行事などへの手伝いや参加をされている。                    | 自治会に加入し、地区祭りに出店したり、奉仕活動や防災訓練に利用者と共に参加するなど、地域との交流を大切にしている。介護予防教室も軌道に乗り、運営推進会議やアンケートで地域住民の意見を取り入れながら更なる繋がりを深めている。              |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 運営推進会議にて認知症についての話し合いを行ったり、地域の行事(夏祭り・体育祭)などに参加し交流を持ち認知症を理解して頂けるようにしている。  |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 2ヶ月に一度、地域の方々やご家族・行政の方・可能な場合は利用者に参加して頂き様々な意見・要望・助言等を頂きサービス向上に努めている。  | 家族、民生委員、区長、広域連合職員、地域包括支援センター職員、市社協、地域住民などが参加し、運営や事例報告、地域活動について活発な意見交換がされている。テーマや話し合う内容によっては家族が参加しないこともある。                    | 事業所の運営や活動について、更なる家族の理解や協力を得、家族も良きモニター役になってもらえる取組みに期待したい。 |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 市町村が開催する定例会に可能な限り参加。運営推進会議にも参加して頂く事で事業所の取り組み・運営を理解してもらえるようにしている。  | 運営上の相談や利用者や地域の問題点について、必要な時に市や地域包括支援センターと話し合う機会を持ち、問題解決に向けて協力体制を築いている。  |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員に対し身体拘束についての研修を行い身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。現時点で身体拘束を行った事は一度もない。しかし利用者の安全を確保するために施錠を行う事もある。(2Fの入り口の扉が建物の構造上、開けるとすぐに階段になって危険な為) | 職員は内外部の研修に参加し、身体拘束について理解を深めている。利用者に対し、職員は連携プレーで見守り、受け止め、寄り添う事で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また常に職員間で対策や方向性を話し合い、利用者がストレスを感じないように対応している。 |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 職員全員が研修を通して勉強会を行っている。虐待が決して行われぬ様に徹底して細心の注意を払っている。   |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 以前に成年後見人制度を利用されていた方がおられ分らない事があった際には話しを伺ったりして他職員にも周知し理解を深め活用出来るように努めている。                         |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時には十分に説明を行い納得して頂いている。不安がある方や希望される方には体験宿泊なども行い安心して利用出来る様に取り組んでいる。                              |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 玄関先に意見箱を設置している。年に1度はアンケートを作成して利用者・ご家族の意見・要望・希望等を伺い運営に反映出来る様にしている。アンケートはフロア内に置きいつでも回覧出来る様になっている。 | 年1回家族対象にアンケート調査を行い意見や要望を把握している。面会時にお茶を飲みながら、また家族が同行する催事の際には意識的に話を聞くようにし、家族の意見を大事にしている。出た意見は職員間で共有し解決に努めている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 年2回フィードバック面接を行いその際に職員の意見や提案などを聞く機会を設けている。その他職員会議や全員ミーティング・通常の勤務時でも必要であれば意見を聞くようにしている。           | 意見や提案は職員会議やミーティング、業務改善提案書の提出で行っている。管理者は話しやすい雰囲気づくりに努め、いつでも意見を聞いている。提案事項は会議で話し合い運営に反映している。                   |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 人事考課やフィードバック面接を行って職員個人個人の意見や思いを聞く機会を設けている。その際に意欲を持ち業務に取り組めるように必要な助言を行っている。                      |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 可能な限り希望する研修への参加を実施出来る様にしている。職員が講師となり内部研修を開催しておりトレーニングを行なっている。法人内の研修へも必要に応じて参加出来るようにしている。        |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 出来る限りケアマネの定例会や勉強会を通して情報交換を行ったり、他事業所への訪問も行い連携を取れる様にしている。   |   |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人・ご家族と話し合う機会を多く持ち「私の気持ちシート」を作成し本人の思いや考えなどを理解出来る様に努めている。  |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 利用前に相談受付を行っていて利用者は勿論の事、ご家族の希望・要望などを伺い良い関係を持てるように努めている。  |  |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | サービス前に体験で宿泊を行って頂き、本当にご本人に必要なサービスであるかどうかを見極め、宿泊体験の様子をご家族に報告して必要な支援であるかどうかの話し合いを行なっている。                             |  |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 食事作りや掃除・洗濯・ゴミ捨て・畑仕事など職員と利用者が一緒に行い共同生活の中で家庭で生活しているような環境を作り出していく努力を行っている。   |  |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 時間の規制を設けずに自由に来園して頂き、来園時には話しをする機会を持ち、問題が発生した場合には速やかに対応・相談を行い一緒に考えながら解決していく様に努めている。家族参加の行事や外出機会を設けてコミュニケーションを図っている。 |  |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人と地元のお店に出掛けたり、友人が来園された時などはご家族の了承を得た上で友人との外出も支援している。  | フェイスシートや面会記録などで、馴染みの関係性を把握し職員間で共有している。自宅やお墓、買い物など馴染みの場所への外出や、年賀状や電話のやり取りの支援も積極的に行っている。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者同士がレクや日々の生活を営む上で関係性が良好になるように相性や好みなどを考慮している。小人数なので仲間意識が芽生え助け合う姿も多々見られる。   |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 契約が終了しても、暫らくの間状況を伺い必要に応じて相談なども行ったり、他施設へ変わられた方には施設を訪問したりして可能な限り関係性を保てる努力を行っている。                         |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 本人や家族と話しをする機会を多く持ち、普段の様子や言動などにも注意を払い本人やご家族の思い等の把握に努めている。心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて本人の思いをより理解出来るように努めている。    | 日頃の関わりの中から、利用者の意向を把握するよう努めている。また3か月から半年毎に「私の姿と気持ちシート」で利用者の思いを把握している。職員からの情報は、職員間で話し合い利用者の思いを確かめている。                 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 普段の生活の中での利用者との会話やこれまでの生活歴・環境の情報等を得て記録に残したり、ご家族の来園時に話しを伺ったりして把握出来る様に努めている。                              |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日常生活の中で本人の身体的・精神的変化に職員が気付く事が出来る様に注意深く観察し状況の把握が出来る様に努めている。日々の状態を処遇日誌に記録して職員全員で周知出来る様に努めている。             |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現在の状況を把握し、本人・家族・担当者・ケアマネとの話し合いの中で計画書を作成。本人の意向が定かでない場合にはご家族との話し合いの中で状況に見合った利用者により良いサービスが出来るように提案を行っている。 | 担当職員が月1回モニタリングを行い、3か月毎にケア会議を実施している。利用者や家族の意向を確認し、心身の全体像を捉えながらアセスメントし、職員間で意見交換しながら利用者ができる事、やりたい事が継続できるようにプランを立案している。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の気づきは記録に残し、職員間で共有している。毎月のモニタリングを行いサービス内容が適切かどうか見直しを行っている。  |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人・ご家族の状況を考えて可能な限り必要とされる支援に対応出来る様に努めている。   |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----|------|---|---|--|--|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 一人ひとりの地域資源を把握する努力は行っているが利用者全員が心身の力を発揮出来るとはいえない。今後は今まで以上に地域資源の活用にも目を向けていきたい。                       |  |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | かかりつけ医との情報交換を行っている。必要時には往診をして頂いたり、職員が受診に付き添うなどしている。状態に変化が見られた際には主治医に手紙などで連絡を行っている。                | 家族同行で利用者が希望するかかりつけ医に受診している。緊急時は職員が同行したり、往診の体制もある。受診結果は家族より情報提供され、緊急時や往診では家族に受診結果を報告している。                   |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | GHには常勤の看護師はいないが、1Fに勤務している看護師がGHの利用者の体調や薬に関して把握しており必要な際には助言や指示を貰っている。                              |  |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合には情報提供を行い、退院時には病院へ出向き今後の生活に必要な指示を受けている。退院後も受診の付添を行っている。入院中は可能な限り病院へ出掛けて状況を見守っている。           |  |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 契約時に重度化した際の事、看取りは実施していない事の説明を行っている。状態が悪化した場合は早めにご家族との相談を行い必要な措置を取っている。その際にも次の生活の場を探す手伝いをさせて頂いている。 | 入居時に重度化した場合や終末期への対応は行っていない事を説明し、家族から理解を得ている。医療的行為が必要になったり重度化した場合、早期に家族と話し合い、特別養護老人ホームや医療機関へ移行している。         | 住み慣れた場所で、慣れ親しんだ人たちと最後まで暮らし続けられるよう、利用者や家族からの思いを聞き取ったり、職員で話し合ったりするなど、重度化や終末期への対応について検討する取組みに期待したい。 |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急対応時シートの手順書を作成し、緊急対応シートを準備し急変時の対応に備えている。研修なども行い急変時や事故発生時の対応に備えている。                               |  |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 定期的に避難訓練を実施。その中で年2回は消防署立会いの下で実施している。地域の自主防災会にも加入して防災訓練にも参加している。                                   | 母体法人全体で月1回火災、地震、水害などを想定した避難訓練を行い、うち年2回は消防署の指導を受けて訓練を実施している。避難マニュアルや連絡網、近隣職員の応援体制が整備されている。非常食などの備蓄も完備されている。 | 利用者の安全確保を行いながら、いち早い消防署への通報や、地域住民の応援体制の検討など、さらなる災害対策の取組みに期待したい。                                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | プライバシー保護の研修を毎年の研修項目に織り込み、プライバシーの確保・利用者に対する対応・声掛けなどの配慮を怠らない様に心掛けている。                       | 職員はプライバシーや尊厳に関する研修に参加し、利用者の表情、言動、性格の把握に努め、その人らしさを理解、尊重し関わっている。また利用者自身が自己決定できるような働きかけを行っている。不適切な発言があった場合は職員同士で指摘しあっている。           |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 本人が思いを大切にできる限り自己決定が出来る様に声掛け・促しをおこない働きかけている。   |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の一人ひとりのペースに合わせてその人が望む暮らしが出来る様に本人の気持ちを考慮して支援を行っている。                                     |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 季節の衣類の交換の際にはご家族の了承を得て利用者と一緒に買いに出掛けたり、訪問美容サービスに来てもらったりして身だしなみには気を配っている。                    |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 配膳・片付けなど出来る事は一緒に行っている。利用者の希望を聞いて外食会や出前を取ったりするのが楽しみの一つとなっている。料理教室も楽しみながら皆が参加して行っている。       | 食事は業者委託であるが、要望を伝え季節の食材や行事食などに反映している。利用者は食器洗いやテーブル拭きなどできる事を行なっている。普通食が食べられない利用者も増え、外食会を個別に対応したり、料理教室のメニューを取入れるなど利用者が楽しめるよう工夫している。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 本人の食事量の把握を行い記録している。水分摂取にも気を配り脱水にならないようにしている。必要に応じて食事の形態や代替え品を提供している。                      |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 起床時や食後の歯磨きは出来る方には声掛け支援を行い、出来ない方には必要な口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を洗浄剤に付けて清潔を保ち、食前の体操時には口腔体操を取り入れている。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | オムツや紙パンツ使用でも出来るだけトイレにて排泄出来る様に時間を見てトイレ誘導・声掛けを行って自立に向けての支援を行っている。                                   | 自立している利用者が多く、必要な時はさりげない声掛けをし、排泄後の確認はトイレで行うようにしている。夜間紙オムツでも日中は紙パンツに替え、トイレでの排泄を支援している。                    |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排便コントロールが必要な方には主治医の指示に応じて支援を行っている。排便チェック表をつけて状態を把握し、おやつ時に果物を提供したり水分不足にならない様に気を付けている。              |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 1対1での入浴の為、職員と利用者とのコミュニケーションが取れてゆっくり入浴を楽しむことが出来ている。汗をかいたり、汚染があった場合には臨機応変に対応してシャワーや入浴して頂いている。       | 週2～3回の入浴で、汚れた時は随時対応している。個浴を好む利用者が多くなり、職員と話しながらゆったりと入浴したり、好みのシャンプーを使うなど入浴を楽しんでいる。一般浴が困難になった時はリフト浴も可能である。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | エアコンなどを利用して室温の管理をおこない快適に休んで頂ける様に支援している。特に就寝時間は設けずにその人に合わせた生活リズムを尊重している。                           |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 処方箋は個別にファイルして急な場合でも確認出来る様にしている。薬に変更があった場合には処遇日誌に記載し職員全員が確認・周知するようにしている。服薬確認表を作成して服薬ミスがないように努めている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | アセスメントの時に本人・ご家族から話しを伺ったり、日々の日々の生活の中で気が付いた事を職員間で話し合い楽しみや生きがい・やりがいのある生活を送れる様に支援している。                |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的な散歩・買い物他に本人が希望される場所へ可能な限り出掛けられるよう個別でも支援行っている。地域の行事にも参加行い、家族参加の外出も行っている。                        | 利用者の希望を聞きながら外出の年間計画を立てている。また散歩、買い物など気軽に出掛けたり、飲食店や自宅など個別の外出支援も行っている。家族参加の外出も企画し、家族との楽しいひと時を過ごせるよう配慮している。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | ご家族の希望でお金は園で預かっている。買い物の際には本人が支払いを行うなどの見守り支援も行っている。出納帳を作成し定期的にご家族にも確認して頂いている。毎月収支報告書を書面にてお渡ししている。            |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人が希望すればいつでも電話が掛けられるようにしている。絵手紙や年賀状なども制作してご家族や知人に送っている。   |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じて利用者さんの手作りの貼り絵をフロアに飾ったり、春には出窓に花を植え季節感を楽しんでいる。皆で外出した際の写真や習字を飾るなどして思い出を楽しんで頂いている。換気やエアコンを調節して室温にも配慮している。 | 居室の中央に共用空間が設けられ、窓が大きく十分な採光が望める。壁には利用者が作成した季節感のある貼り絵や習字などの作品が飾られ、温かみがある。窓際には花木が置かれ、利用者が水やりを行ったり、時折アルバムを開いて会話を弾ませるなど和やかな空間となっている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | フロアでは各個人の場所が決まっている。が皆でゲームをしたりする時などは場所を変えたりして工夫している。休みたくなったら各部屋に自由に行ってゆっくり過ごされている。                           |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 自宅より使い慣れた物を持参されたり、家族の写真を飾ったり、ポスターを貼ったり自由に飾り付けをされている。  | 居室には備え付けのベッド、クローゼット、たんすが置かれ、利用者が作った作品や家族の写真などが飾られていたり、馴染みの家具などが持ち込まれその人らしい居室となっている。各居室のトイレも清掃が行き届き清潔である。                        |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 個人個人の能力を理解・把握しそれに基づいて、それを生かせる環境を整え安全に生活出来るようにしている。  |   |                   |